

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	R2608
代表機関名	熊本大学
主担当研究者所属部局	先進マグネシウム国際研究センター
関連研究分野	先進マグネシウム国際研究センター
主担当研究者	河村 能人
事業名	先進マグネシウム合金創生を軸としたグリーン部素材国際ネットワークの構築

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 7 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 5 名（准教授 3 名＝303 日、359 日、301 日、助教 1 名＝427 日、その他（特任助教）1 名＝346 日）、300 日未満の者が 2 名（准教授 1 名＝142 日、助教 1 名＝270 日）となった。 ・計画していた 11 名の招へいに対し、最終的に 12 名の招へいとなった。 ・多くの若手教員（准教授、助教）が長期間、海外研究機関において研究を実施していること、また海外からの招へい研究者も比較的長期にわたり、熊本大学に滞在していることから、着実にネットワークの構築は進んでいると判断できる。ただし、継続的な国際融合ワークショップの開催など、ネットワークをどのように定着させていくかについては何らかの全学的な支援が望まれる。 ・国際学術誌への国際共著論文数は目標数に向かって伸びているが、実施報告には本事業による共同研究成果とは言い難いものも含まれているとみられ、一層の努力が必要な点は残念である。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・派遣した若手研究者が共著となる国際共著論文がすでに 10 件程度に達していることから、非常に優れた業績を挙げていると評価できる。 ・4 つの国際共同研究課題のためのタスクフォース（TF1～4）のうち、TF1、3、4 においては到達目標に対し大きな成果や共著論文投稿も得られているようであるが、TF2 での特に放射光 X 線を利用したの力学的特性発現機構の解明に関しては、成果の報告が十分でない点は残念である。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 3
コメント

・本事業によって構築された国際研究ネットワークは、特に欧州における各国ならびに北米と強固に結び付けられており、長期的な継続が期待されるにも関わらず、ネットワークの維持・発展についての具体的な方策が示されていないのは残念である。国際ネットワークのハブとなるためにも大規模な国際会議の開催が期待される。

・若手研究者のうち数名の活躍は目覚ましいものがあるが、人材の全体的な底上げや若手研究者をどのように活かしていくかについて明確化が期待される。

以上のことから、今後の展望は概ね高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

・「シンクロ型 LPSO 構造を有する軽量高比強度 KUMADAI-Mg 合金」を技術の核とした新的軽量高比強度グリーン部素材創生に向けての国際研究ネットワークの構築に向けて、若手研究者を特に欧州の各国ならびに北米に派遣し、4 つの国際共同研究課題 (TF1~4) に対し、大きな成果を上げるとともに多数の国際共著論文投稿も行われている点は評価できる。

・大学が世界のハブ機能を果たす、あるいは「国際標準の創出」といった点は、目処が立っているとも判断しがたく、継続してワークショップを開催するなどの努力は必要と思われる。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない